

海南高等学校

実施日時	平成30年 12月 6日(木)
参加者	生徒391名、教職員20名 計411名
実施内容	避難訓練及び全体講義、アルファ米調理(1学年) 「L字金具等を用いた家具固定講座」(2学年)

事前の取組

(1) シェイクアウト訓練等

11月1日、全校生徒及び教職員を対象に。緊急地震速報試験放送に合わせてシェイクアウト訓練を行うとともに、校外高台に位置する海南市総合体育館までの避難経路の確認及び「和歌山県防災ナビ(リフレット)」を用いた避難カードの紹介を行った。

(2) 避難経路確認等

緊急地震速報が出されたあと地震が発生したと想定し、集合場所を体育館に設定して速やかに避難できるように訓練実施に先立ち職員の配置等の役割分担をし、避難経路を確認した。また、災害時の避難経路を教室に掲示し、周知をはかった。

(3) 簡易トイレ作り講習

各クラスのボランティア委員を呼び、新聞紙を折って簡易トイレにする方法を練習した。訓練当日は各クラスで、うまく折れていないグループの指導に当たった。



主なプログラム

(1) 避難訓練

生徒は全員ホームルーム教室での授業中に緊急

地震速報が発令されたという想定のもと、授業担当者が今回の避難場所である体育館へと誘導した。体育館で全員の避難完了を確認した後、防災スクール担当教諭が訓練についての講評をおこない、全体講義へと移った。



(2) アルファ米調理

1学年全員で生徒ホールに移動し、お湯を使ってアルファ米の炊き出しをおこなった。緊急時にはお湯が使えないことも考えられるため、水でもできることを口頭で説明した。アルファ米の箱には小分け用の容器が入っていたが使用せず、災害時のラップの使い方の紹介を兼ね、各自の手の上にボランティア委員がラップを置き、その上に直接配膳し、おにぎりにして試食した。



(3) 「L字金具等を用いた家具固定講座」

2学年は「地震体験車ごりょう君」による地震体験を計画していたが、雨天のため全体講義に引き続き和歌山県危機管理局による「L字金具等を用いた家具固定講座」を講義してもらった。

参加者感想文

- 自分の家の非常食や防災の時に使うラジオや電池、発電機等が使用できる状態なのかを確認しておこうと思った。
- アルファ米配膳訓練を受けて、食べ物があるありがたさがわかりました。
- 予想を上回る地震や津波がくることがあることに驚いた。
- このような災害に備える活動はとても大切なことだと感じた。今回配膳の訓練に参加できて、もし災害が起きたとき自分から行動するのに役に立つ練習になったと思う。
- 地震の恐ろしさを改めて知ることができる良い機会になった。実際に災害に遭ったときに正しい判断ができるように知識をつけていきたいと思った。
- もし本当に災害がおきてしまったら、どこで家族と会うかなど、たくさんのことをもっと詳しく話し合った方がいいと思いました。さらに、災害が起きたときは、自分や家族だけではなく地域の人と助け合って命をつないでいくことが大切だと思いました。

成果と課題

避難訓練では、生徒からはあまり緊張感は感じられなかったが、騒ぐことなくスムーズに避難場所への移動ができた。避難経路は実際に地震が起こった時に第1波によってパニックになって飛び出すと危険なため、渡り廊下は使用しないように考えた。

2学年は雨のため、当初計画していた地震体験車両による地震体験ができず、講義が2時間続き

となったことで、主体的に参加する場面が作れなかったことが課題である。

1学年はアルファ米の試食と簡易トイレ作りということで参加型であり、主体的に取り組み、実際に災害が起こった時にはボランティアなどで貢献したいという気持ちが芽生えた生徒も見受けられた。課題としては、配膳が思った以上に時間がかかったことである。誘導や配膳をおこなうボランティア委員に対しての事前指導の回数を増やすことが必要であると感じた。

全体の課題としては、近い将来に起こるとされる南海トラフ地震では大きな津波の発生が予想されることから、校外への避難経路の確認である。また、近年では想定外の被害が発生していることから、指示に従いながらも臨機応変に対処する判断力を育成することである。